

平成 29 年度第 5 回行財政最適化支援専門部会 会議概要

1 開催日時	平成 29 年 12 月 25 日(月) 午前 9 時 58 分から午前 11 時 52 分まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎 3 階 3A 会議室	
3 出席者	委 員	坂野部会長、高井委員、石塚委員、大屋委員、田村委員
	事務局	政策部長、行政経営課長、同課課長代理、同課担当 3 名
4 議 題	(1) 平成 29 年度行財政最適化支援報告書(案) (2) その他	
5 配付資料	次第 資料 平成 29 年度行財政最適化支援報告書(案)	

6 会議概要(要点筆記)

議事(1) 平成 29 年度 行財政最適化支援報告書(案)について

—施策の最適化に当たって、目次、Ⅰ行財政最適化支援について、Ⅱ本年度の行財政最適化支援について—

【事務局】—施策の最適化に当たって、目次、Ⅰ行財政最適化支援について、Ⅱ本年度の行財政最適化支援について説明～P3—

【部会長】 皆さんから何か御意見などありますでしょうか。

【部会長】 意見がないようでしたら、また、何か気付いたことがあったら戻ることにして、次に進みたいと思います。

—地下水保全の取組みについて—

【事務局】—Ⅲヒアリング対象事業の最適化 地下水保全の取組みについて説明 P4～P6—

【部会長】 「秦野名水」は、地下水とも表現されたりしています。ブランド化しようとしたときに採用した言葉だと思いますので、この言葉を出す場所は、よく考える必要があると思います。

【委員】 「秦野名水」は地下水系を含めたブランド名ですね。文章の中で、ブランド名を使ったほうがいいのか、そうではない「地下水」といった言葉を使ったほうがいいのか考える必要はあると思います。

【部会長】 どこかの段階で「秦野名水」という言葉を使うことはいいと思います。始めに出すのがいいのか、ブランド化のところで出すのがいいのかどうでしょうか。

【事務局】 「秦野名水」について、環境保全課では、地下水を水源とする水の総称、地下水を水源とする水はすべて対象と定義しています。P2のテーマ

の選択のところで、触れられるようにしたいと思います。

【委員】 「秦野名水」は、表紙にも出ていますし、部会での検討対象としていますので、テーマの選択のところで触れられるのが良いと思います。

【部会長】 「秦野名水」という言葉を使って、おいしそうだなとか健康に良さそうだなと思ってもらえるといいわけですね。そういう風にブランディング、シティプロモーションをしていって、例えば、「秦野名水」という言葉が付いた商品が、付いていない商品と比べて10円高く売れるということになれば、ブランド化としての効果が捉えられると思います。

【部会長】 見出し3の「地下水保全と関連する施策」については、「秦野名水と関連する施策」と書いてもいいような気がします。

【委員】 湧水は、秦野名水に含まれると思うが、地下水保全だと含まれないように感じる。また、特徴的な秦野名水を知らしめる意味でも検討していった方がいいと思いました。

【事務局】 「秦野名水」と「地下水」等との使い分けも含めて、整理していきます。

#### —ペットボトル事業について—

【事務局】 —Ⅲヒアリング対象事業の最適化 ペットボトル事業について説明 P7～P8—

【委員】 P8見出し1の「ツールとしての位置付けるべき」は、「ツールとして位置付けるべき」に修正するようお願いします。

【部会長】 「名水の里・はだの」のPRとありますが、個別商品をブランド化していく際のキーワードとシティプロモーションしていく際のキーワードを整理して、報告書を読んだときにキーワードの使い分けができるようになると、各部署が取組みを進める際に、何をやろうとしているのかが、はっきりしてくると思います。

#### —地域ブランド育成事業について—

【事務局】 —Ⅲヒアリング対象事業の最適化 地域ブランド育成事業について説明 P9～P10—

【委員】 P10見出し1の2段落目「ストーリー（付加価値）を与えること」とあるが、違和感があります。「ストーリー（付加価値）を構築していく」といった表現の方が良いと思います。

【部会長】 見出し2の中では、「ストーリー（付加価値）づくり」としていません。見出し1では、例示としての内容で、見出し2では、例示でなく、そうすべきという内容で記載している。見出し2で、水を中心にしてストーリーづくりをしていくべきといっているのです、見出し1で例示として挙げなくてもいい

ようにも感じます。

【委員】 書き出しを「秦野の農産物、加工品などは」から「例えば、秦野の農産物、加工品などには」に直せば、違和感がなくなります。

【部会長】 総合ブランドという言葉を使っていたと思いますが、あえてその言葉は消えています。秦野のブランドを高めていく取組みは総合ブランドになると思いますので、総合ブランドの確立に当たって必要なこととして記載できればいいと思います。例示についても、総合ブランドを確立していく際の具体例となってきます。

【事務局】 ここについては、総合ブランドと個別ブランドの関係性に触れながら例示につなげるような書き方を検討していきます。

#### —シティプロモーション事業について—

【事務局】 —Ⅲヒアリング対象事業の最適化 シティプロモーション事業について説明P 1 1～P 1 3—

【委員】 見出し1の3段落目の「連携は成功例であるが」は、「連携は成功例であり」の方が、いいと思います。

【委員】 山の日における出版社との連携は、従来の広報手法だと思います。どこの会社でも、雑誌社に商品を送って、取り上げてもらうような取組みは行っています。新しい広報分野に挑戦していくという見出しなので、従来の広報については、始めに触れて、その次に新しい広報分野であるSNSなどに挑戦していくといった記載がいいのではないかと思います。

【部会長】 「新しい広報分野」という言葉は、自治体で行う広報としては、民間企業との連携は、新しい取組みという認識で書かれたものだと思います。民間で当たり前であるものが、十分にできていなかったということだと思います。今の御指摘は、重要で、行政と民間とですごく意識差があったのだと思います。従来、民間企業で行われてきたプロモーションの手法を行政として、取り入れたことは評価できるといった書き方がいいのかも知れません。そういったことを積極的に行うと同時に、新たな広報手法についても挑戦していくことが必要ということだと思います。

【部会長】 先ほど、水については、「名水の里」という言葉が出てきましたが、山と桜についても、シティプロモーションのキーワードのような言葉はあるのでしょうか。

【事務局】 「名水の里」という言葉については、上下水道局がペットボトルを売り出していく際に使っている言葉で、全庁的にオーソライズされたものではないという認識です。現在は、各部局でそれぞれの言葉を使っている状況で、シティプロモーションに戦略的に取り組めていないということだと思います。

【部会長】 「山と桜との連関を念頭に」とした時に、すべてを含むキーワードであればいいと思いますが、シティプロモーションを行っていくうえでの全体を見通した方針みたいなものがあつた方がいいということだと思います。

【委員】 「山と桜との連関を念頭に」とありますが、水だけでのプロモーションを制限することになりますか。

【事務局】 制限するのではなく、現在、山と桜と水の広報の取組みがバラバラに行われているところがありますので、もっと関連させて取り組むと効果が高まるのではないかという趣旨です。

【部会長】 山と桜については、関連するイベントで人を呼ぶことができますが、水については、それだけで人を呼ぶ素材にはなっていないので、合せ技で何かできないかということだと思います。

【委員】 人を呼ぶことだけが目的ではなく、例えば、水を飲むことで、住んでいる人が健康になるといったことが伝えられればいいと思いますので、人を呼べないことだけで失敗ということではないと思います。

【委員】 シティプロモーションという見方をしたときに、やはり外に向けた取組みですので、そういう意味で、水についてはまだ弱いと思います。山なら、丹沢は広く認知されていますし、桜についても、桜漬けの生産量が日本一とか桜並木が県内一であるとか、外の人を呼ぶキーワードがあると思いますが、水については、人を呼ぶようなものが弱いと思います。合せ技も必要だと思います。

【部会長】 例示にある湧水群を歩くイベントなどは、山や桜と関連させることはできるのではないかと思います。同じく例示にある子育て世代への発信などについても、山や桜のイベントに合わせて、水に関係した食の安全を発信することなどで、合せ技も可能ではないでしょうか。

【事務局】 山と桜に必ずしも関連させることはありませんが、相乗効果が期待できることも多いので、3つの資源の連関を意識して取組を進めていくことが重要という趣旨で記載しています。

【委員】 水に関しては、伝説もあります。秦野市の姉妹都市の諏訪から現在の湧水群に大蛇が降り立って、頭の部分に今は名称が変わっていますが諏訪神社が造営され、尻尾のあつた部分が、「尾尻」という地名として残っているという話もあります。そういった伝説もうまく使えば、プロモーションの素材になってくると思います。

【部会長】 水に限らず、山や桜にも伝説や神話はあるのでしょうか。ストーリーを作っていく際に、伝説や神話を付け加えていったらいいと思いました。伝説も地域資源になると思います。

【事務局】 水にまつわる話をコラム的に出せたらいいと思います。

## —秦野名水のブランド活用の最適化について—

【事務局】—Ⅳ秦野名水のブランド活用の最適化について説明 P 1 4～P 1 7—

【部会長】 P 1 6「自然発生的なブランド」という記載がありますが、ブランドは自然発生するものではないので、「民間主体の」などの言葉に変えた方がいいと思います。

【委員】 「民間固有の」といった言葉もいいかもしれません。

【部会長】 P 1 7「直接的に市民の利益とならないものも多い」とありますが、多いとまでは言えないのではないかと思います。「利益にならない」とは書かずに、「直接的に利益へのつながりが見えにくい」といった表現がいいかもしれません。

【委員】 農林業についての記載で、P 1 6「愛される秦野の顔となる」の表現が唐突に情緒的なので、もう少し論理的な表現にした方がいいと思います。

【部会長】 農業、林業について、総合計画等でどのような表現をしているのでしょうか。

【事務局】 メインの産業ではありませんが、里地里山などの農林業は、歴史があったり、環境や景観などに作用する産業なので、経済的には影響は小さいですが、支えていかなければいけない産業であると考えています。

【部会長】 外部性の高い産業であると思いますが、どのような表現がいいのでしょうか。

【委員】 P 1 6の(2)の文章の構成について、第2段落の部分は、最後に持っていた方が文章は論理的につながるのではないのでしょうか。

【部会長】 全体としては、個別商品のブランド化では民間事業者が中心になる必要があるという発想があって、行政としては、それをやりやすい環境に整えるということだと思います。その中で、秦野のブランドにつながるような部分については、行政の役割が出てきます。秦野の特徴となる森林や農業については、事業者だけではなく、行政も一緒になって守っていくということが必要になってくるのだと思います。そのように、特徴となる産業を下支えしたうえで、それぞれの個別商品のブランド化は、各民間事業者で取り組んでもらいたいということだと思います。

【委員】 (2)の3段落目の文章は、見出しのところで「秦野名水の活用」とあるので、名水を守るという観点で、森林事業、農業に触れる形の方が、整理できると思います。

【部会長】 名水のブランド化については、行政が中心となって役割を果たさなければならない部分があって、その時に、下支えとなる森林、農業を守る必要があるということが言えればいいですね。2段落目の記載はなくてもいいかもしれません。

【委員】 「愛される秦野の顔」という表現はどうでしょうか。

【委員】 「愛される秦野の顔」という言葉でなく、3段落目については、「特に森林事業、農業などの産業は、秦野の地域資源に関連する産業であるので、」といった記載がいいと思います。

【部会長】 あるいは、「水資源の保全に関連する」といった表現でもいいと思います。今回は、名水の活用をテーマに審議しているので、林業・農業について、名水以上の価値として書かなくてもいいと思います。

【部会長】 あと、気になる言葉として、P 14の見出し2から出てくる「秦野市のブランド化」という言葉ですが、「市のブランド化」ということは違和感があります。

【事務局】 「地域イメージのブランド化」を修正して「秦野市のブランド化」としています。

【委員】 「市」を除いて、「秦野のブランド化」としてはどうでしょうか。「市」があると自治体としての意味合いが強く出てしまうと思います。

【委員】 秦野ブランドという言葉もあるので、「秦野のブランド化」がいいと思います。

【部会長】 「秦野のブランド化」でいきましょう。

【部会長】 前の会議で、ブランド化は民間事業者が中心になって進めていくべきといった話の中で、秦野のピーナッツをお土産として持っていく話があったと思いますが、「民間が主体」といったときに、必ずしも自分のところの商品だけブランド化するという事ではないと思います。互いのブランドを高め合う取り組みは重要だと思います。そうしたときに、行政が調整をしていく役割はあるのかなと思います。そういったことにも触れられたらいいと思いました。

【事務局】 最終的には、市民が名水に誇りを持ってもらえれば、一人ひとりが広報マンになってくれると思っています。最終的な主体は、民間事業者を含めた市民であると思います。

【部会長】 他にないでしょうか。なければ、今回は最後になりますので、修正箇所がいくつかありますが、あとは、事務局と私で確認して最終のものとします。よろしいでしょうか。

【委員】 一任します。

【部会長】 それでは、報告書(案)についてはここまでとします。

## 議事(2) その他

【部会長】 それでは、議事(2)「その他」について、何かありますでしょうか。

【事務局】 これまで、活発な御意見ありがとうございました。いただいた御意見を踏まえ、部会長と調整させていただき、報告書を各委員へお送りさせて

いただきたいと思います。また、報告書につきましては、市長に提出する報告会を2月か3月に行いたいと思っております。今後、部会長と市長の日程を調整して決めさせていただきたいと思います。日程が決まりましたら、連絡しますので、御出席できる方はお願いしたいと思います。

また、最後に、来年度の最適化支援に向けて、若しくは今年度の最適化支援の感想について、皆様から御意見等をいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

【部会長】 感想で言うと、参加するたびに、秦野のいろいろな側面が奥深く分かってきます。また、秦野市で仕事をさせていただいて、面白いと思っていることは、委員と事務局との距離は自治体によっていろいろありますが、秦野の場合は、委員会で審議したことを真摯に受け止めていただいて、ちゃんと報告書に反映する形になっていることです。参加して気持ちがいいです。

今回のテーマは、すごくうまく作られたと思います。私は、地下水と上にある生活系が一致していることも知らなかったですし、特に感銘を受けたことは、最高裁で、私益である財産権がかかっている土地に、公益性を認めさせたということは、すごいことだと思いました。また一つ学べたと思っています。

最適化支援については、やり方自体はいいと思います。個別の施策を審議するのではなく、セットで関連付けて審議するという発想はいいと思いますが、年度を追うごとにテーマがなくなっていくのではないかとも思いました。テーマ設定が難しくなっていくのではないかと思います。

来年また、面白いテーマを設定されることを期待しています。

【委員】 何年か参加させてもらっています。今年は、テーマが非常に面白かったです。長く秦野に住んでいて、水に対して、きちんと調べようとしたこともなかったですが、今回をきっかけに、水そのものの成り立ちなど、見ようとするといういろいろあります。湧水群についても、実際に歩いてみるといういろいろ新しい発見があります。ボーリング調査を行っていましたが、秦野の成り立ちについても勉強させてもらいました。山も500万年くらい前に南から来て、関東地方にぶつかってできたことなど、今までは、山があつていいなという感じしか持っていなかったが、こういった機会をもらって、深く分かってきたこともあって、愛着もわいてきました。今年は、参考になることもあり、楽しかったです。

【委員】 今回から参加しています。正直に申し上げて、委員の皆様のレベルの高さ、事務局の誠意を感じて、驚きました。民間企業時代には、行政とのこのような関係はありませんでした。ビール会社でしたので、国税庁とのやり取りはありましたが、一緒に作業したことは初めてでしたので、非常にいい時間を共有できたと思っています。

水については、関心があつて、両親と祖母が34年前に東京から北矢名に越

してきました。祖母は空気と水がおいしいと話をしていました。日本一の水が水道水として飲め、丹沢の山ときれいな空気があるとなると都心からけっこう人を呼べるのではないかと思います。

参加して、ちょっと迷ったのが、どの程度まで発言していいのかということです。アイデアについて、昔いた会社の経営資源や人脈などが頭の中にあるので、秦野市職員であつたらどこまでできるのかを考えながら、どこまで発言していいのか悩むところもありました。

【委員】 たまたま、県庁時代の最後の仕事が水源環境税を作る仕事でしたので、秦野市は地下水だということは知っていました。楽しかったですし、少しはお役に立てたのかなと思っています。

今年度から名称を変えてもらったようですが、行政評価という言葉は嫌いです。何をもって成功とするのが難しいと思います。削るということは、何かを犠牲にすることになります。本当のムダというものはあるかもしれませんが、見分けが難しいと思います。

また、シティプロモーションがどうも好きではないです。競い合うものなのかという疑問があります。ただ、今回、調べて分かったこともあります。コンサルに食いものにされているということも分かってきて、記載として残してもらったので、私の行政時代とは違うものを今は世の中から要求されていることも勉強させてもらったと思います。いろいろありがとうございました。

【委員】 一年間お疲れ様でした。3年目になります。最初の1年は、行政評価で苦々しく思うところはありませんでしたが、去年は人材育成、今年は水というテーマで、前向きに議論ができて、楽しく参加させていただきました。

シティプロモーションについては、価値を高めることに注力していて、それをどうつなげていくかについて答えがでているのか疑問があります。東名を走っていても大和市のところに、「健康都市」、「図書館日本一」、最近では中井町のところに「地下水100%」の横断幕が出ていますが、最初は、「そうなんだ」と思っても、何回も見ているうちに「またか」となります。価値を押し付けてもいけないということだと思います。住んでいる人が、住んでいる土地に誇りを持てるように、普段気づいていないことに価値を見出して、その価値を周りに伝播していくということが、もっとできてくると、いい町になるのかなと思いました。

今回、水ということで、歴史も深く知ることもできましたし、是非、この一年間で考えさせられたことや学んだことは他でも伝えていきたいし、伝えた人からまた広がっていくことも大切なことなのかなと思いました。

今年、JCで水鉄砲大会を行って、市外からもたくさんの方が参加されたと聞いています。ただ、来年はできないらしいので、残念ですが、そうやって、民間で「水に対して何かやっ払いこうよ」というのが、ひとつでもふたつでも

出てくると、ここで議論したことの価値が上がってくると思います。

是非、数年後に、この調査会で、この水の施策について再度取り上げて、今回議論したものがどう実現できたかとか、どう評価できるのかななどを議論できれば、さらに一段上れるのかなと思いますので、そんなことを期待させていただきます。ありがとうございました。

【事務局】   ありがとうございました。

【部会長】   ありがとうございました。秦野は研修の一環として次世代育成アカデミー制度がありますので、ここで議論したことについては、そういったものの中で反映して、また、行政の中の人だけではなく、民間、市民とも一緒になって、連関をもって、政策の実現に結びつけるという取組みができれば、また、秦野の中で面白いことが起きるのかなと思いますのでそういったことも考えながら、実現に向けて進めていただけたらと思います。長期間、どうもありがとうございました。